

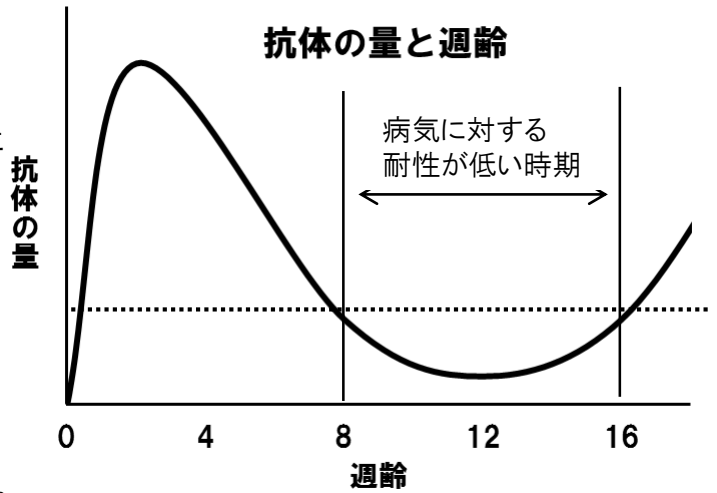
動物に優しい予防接種プログラム

近年、動物に負担をかけない事を目的として、WSAVA(世界小動物獣医師会)が推奨するガイドラインに基づいたワクチンプログラムを地域でいち早く実施しております。

ワクチンが必要な理由

ワンちゃんやネコちゃんには、ジステンパーやパルボ、猫白血病や汎白血球減少症など、伝染性が高く感染すると死亡率が高い感染症があります。ワクチンは、そういった感染症に対抗するための免疫をつけるために必要なものです。

免疫は、元々お母さんの初乳により親譲りの免疫(移行抗体)を受け継ぐため、1ヶ月近くは感染症から守られています。しかし、その免疫は8週齢から16週齢にかけて徐々に下がっていきってしまうため、免疫を補うためにワクチン接種をすることが大切です。



変わりゆくワクチンプログラム

従来のワクチンプログラムでは、免疫が下がる時期を考慮し、初回接種が8週齢以内の場合は4週おきに3回、8週齢以上の場合は4週おきに2回接種し、1歳以降は下がった可能性のある免疫を補うために、毎年混合ワクチンを接種しておりました。

従来の 予防接種プログラム

週齢 (生後)	混合ワクチン	
	初回接種が ～8週齢以内 の場合	初回接種が ～8週齢以降 の場合
～8週齢 (2ヶ月)	初回接種	
8週齢～ (2か月)	初回接種から4週ごとに2回	初回接種を実施後、4週後に1回
1歳～	年1回接種	年1回接種

しかし、近年、研究が進んだ結果、WSAVAは、①ウィルスの危険度と感染報告、ワクチンの免疫が持続される期間などから、ワクチンの必要性をコアワクチンとノンコアワクチンというに2つに分けました。さらに、一度ワクチンを接種すると、ある程度抵抗が長く持続する事がわかってきたことから、そういったことから、不必要なワクチン接種を防ぐために、②新たなワクチンプログラムを制定しました。

1. コアワクチンとノンコアワクチンの分類

コアワクチン	世界中で感染がみられるうえ、感染すると死亡する危険性が高い事から、全ての犬に接種すべきワクチン。 成犬では抗体検査によるウィルスへの抵抗を調べ、低い場合にワクチンを接種すべきもの。	◎ 犬ジステンパーウイルス ◎ 犬アデノウイルス ◎ 犬パルボウイルス2型
ノンコアワクチン	地域や生活環境により接種を行うべきであるが、ワクチン接種後の免疫の持続期間が短いため、年1回接種が推奨されるもの。	◎ レプトスピラ ◎ ケンネルコフ

2. 推奨ワクチン接種スケジュール

従来の「毎年全てのワクチン接種」という考えではなく、「ウィルスへの抵抗が比較的持続するコアワクチンに関しては、抵抗が低くなった時にワクチンを接種すべきであり、不必要に接種すべきではない」という指針をWSAVAは出しております。そのため、1歳未満のワンちゃん、ネコちゃんは最終接種が16週齢となるように2～4週ごとに計2回接種し、1歳以上の子は、ワクチンについては抗体検査の実施し、抗体検査の結果に応じて3年毎よりも頻回に接種しないことを推奨しております。

週齢（生後）	混合ワクチン		狂犬病ワクチン
	コアワクチン	ノンコアワクチン	
8週齢 (2ヶ月)	第1回接種		
12週齢	2～4週ごとに計2回接種		生後90日以降に 1回接種
16週齢			
24週齢～1歳	再接種		
1歳～	抗体検査による結果により、3年毎よりも頻回に接種しない	年1回接種	年1回接種

新たな
予防接種
プログラム

当院では、WSAVAのガイドラインに基づき、ご希望の方には、毎年の**ワクチン抗体検査とレプトスピラとケンネルコフ単体の接種**を条件に、コアワクチンは3年に1回の接種の対応をさせていただきます。

※抗体検査の結果、ウィルスに対する抵抗が低い場合は、混合ワクチンの接種をお勧めいたします。

■ 抗体検査



体内にウイルスに対する抵抗が残っているかを調べる検査です。

■ レプトスピラとケンネルコフ単体の接種



レプトスピラとケンネルコフは、抗体持続期間が短いため、毎年の接種が必要です。